

	目標としたこと	実現のためのプログラム
北海道	一体感と自立	勉強会ではOBの体験談を聞き、カーボカウントや最新の治療について一緒に学んだ。食事ごとのインスリン量を自分でスタッフのアドバイスをもらいながら決めて調整した。
青森	カーボカウントの勉強、災害時の対応などの知識の確認	見本を使ったカーボ計算、災害時の対応に関するグループワーキング
岩手	1. 患者様の生活体験の拡大 2. 非日常における病状管理の習得	1. グループ活動（小さい子も一緒に全員で登山） 2. バーベキューや外食時の血糖管理
秋田	「花火&お祭りキャンプ」と題し、患児、OBOG、家族、医療スタッフなどと交流を深める。結果として、糖尿病の正しい知識の普及啓発が図れる。	お祭りの屋台で出てくる焼きそば、たこ焼き、焼きトウモロコシ、タピオカミルクティー等の飲食物のカーボカウントを学ぶため、管理栄養士によるレクチャーを行った。
山形	災害時、避難所などで1人になった時に対応できるよう考えて行動できるようになる。	講義「災害時の対応」、避難訓練、グループワーク
宮城	同じ1型糖尿病のキャンパーと一緒に過ごすことで、糖尿病とともに普通に生活していく自信を持ってもらう	自分が糖尿病であることを周囲にどうやって伝えるか、グループごとに話し合い発表した。OBOGの実体験を聞きながら、必ずしも糖尿病であることを伝えなくてもよいことを学んだ。糖尿病であることを伝えるストーリーの漫画を作成して、キャンパー、OBOGがセリフを朗読して、実際に糖尿病であることを伝えるイメージを共有した。
福島	「やってみよう、見つけよう！」をテーマに掲げ、キャンパーの自立の支援に加え、スタッフも例年より少人数にして、それぞれがどれだけ自分の力で頑張れるかに挑戦した。	各チームの旗をキャンパー自身が作り、3日間自分たちの力で準備、実行し、キャンプを成功させる自覚を促した。各レクリエーションもチーム対抗の点数制を導入し、全員が主体的に参加し、協力して頑張れるようにした。
群馬	同年代の患児との交流を密にして、血糖コントロールや日常生活のことを話し合う機会を多く設けることにより、食前の自身の血糖予測や食事に対するインスリン量を各自が自覚をもって決めることができるようにする。	・勉強会（同年代の患児のグループを作り、話し合うことで自覚を持たせる。） ・ハイキング（屋外を歩くことで、運動による血糖値の変化を自覚する）
栃木	・糖尿病を正しく理解し、よりよい自己コントロールができるようになり、自立していくこと ・インスリン自己注射や血糖自己測定の手法を理解し、普段と異なる環境で適切な血糖コントロールを身につける ・糖尿病と上手につきあうコツを身につける	・勉強会でクイズ形式で糖尿病の基礎知識を習得するとともに、糖尿病に対する子供たちの意見等を聞き出し、ユニークな答えや良い意見にはOBOGを中心にスタッフで審査して賞を授与した。 ・年代別でのフリートーキングで子ども達から率直な意見を聞くとともに、医療スタッフやOBOGからのアドバイスや適切な情報の提供を行った。
茨城	キャンパー自身が血糖値や食事内容、活動量を考えての行動がとれるようになることを目標にした。スタッフが指示したり決定するのではなく、自己決定できるよう見守り、必要な時にアドバイスすることを心掛けた。	初日に外出時の低血糖の対応や生活の注意などの勉強会を行った。翌日遠足に行き、必要物品や注射、低血糖対策などを実践してもらった。
東京(つぼみ①)	糖尿病についてもっと理解を深めよう。特に、糖質・脂質が人に与える役割を理解する。	栄養士・看護師による講義。年代ごとにグループ分けして、グループワークを実施し、発表した。医療系では年代ごとにテーマやクイズを与え、グループ発表した。栄養系では実際の食品やお菓子を使い、糖質・脂質等の多い順に並べ替えをして、実践的に内容を理解させた。
東京(つぼみ②)	糖質量を見積もれるようになろう。インスリン量を計算できるようになろう。	毎食時に糖質量の見積もりを行い、栄養スタッフと確認した。その際、管理栄養士を含む栄養スタッフと栄養バランスについても相談した。
東京(なかよし)	①キャンパー同士の情報交換の場を設ける ②安全面を確保し、スタッフができるだけ初参加のキャンパーにマンツーマンで対応できること。 ③SAP使用者やリブレ使用者が多く、定期的なスキャンを徹底すること。④キャンプ中は活動性が高くなるので、低血糖などを見逃さないようにする	①勉強会やお別れ会等でのグループ行動の際に、接点が多く持てるように配慮した。 ②学生スタッフの人数を多くした。③低血糖回避や予防、ポンプトラブル回避のため、事前に学生に勉強会を実施した。④SAPやリブレのスキャンなどを個別対応し、インスリン投与量についても確認と指導を行った。
東京(わかまつ)	・発症間もない児、未就学児：SMBG、インスリン注射の手技獲得 ・高学年児：SMBGおよび運動量・食事量に基づいたインスリン投与量の決定	・学年を越えた交流ができるように配慮した。年長児の姿から、未就学児が自主的にSMBGやインスリン注射を行うことを目標とした。 各自に血糖記録帖帳を作成した。食事内容や運動量、血糖値のつながりを理解し、主体的に治療に参加することを目標とした。
千葉	SMBGおよび食事量、運動量に基づいたインスリン投与量の自己決定と管理	医師主導勉強会とグループディスカッションを小学校高学年以上を対象に実施した。②低学年向けには看護学生主導のクイズ形式の勉強会を行った。それらでシックデイやインスリン療法などの知識共有を行った。
埼玉	テーマ「太陽のようにかがやく笑顔」この先起きる困難も笑顔で乗り切れるように、同じ病気の仲間、それを支えてくれる一緒に輝く笑顔でキャンプで学び、経験する	グループを決めて協力して目的を達成する教育や遊びのイベントを実施した。
神奈川(横浜)	心理的援助や同じ疾患の友人との交流を第一に、年齢に応じた疾患理解や血糖コントロールの方法を学ぶ。	キャンプファイヤーやカヤック体験、海水浴、肝試し等各種イベントの中で、患児同士の交流を試みた。カレー作りでは各自で摂取する糖質量を測定し、インスリン投与量との関連を測った。
神奈川(相模原)	サマーキャンプを通して、会員相互の親睦を深め、さらに病気の知識を仲間とともに学び、生活の質を向上させる。	①ジャスティン・モリス氏の講演会を実施し、貴重な経験談を聞いたあち、将来の夢を絵に描いて夢について語り合うグループワークを行った。②シニアによる勉強会で、「病気のことを友達にどう話す？」をテーマに、1人1人意見を出し合って話し合った。③SMBGの時間に、インスリン量の計算や目標血糖値の設定、その結果と原因を考えた。

山梨	糖尿病治療が進歩して、カーボカウントやインスリンポンプ療法、持続グルコースモニタリングといった治療により、血糖コントロールを劇的に改善することができている。しかし、治療が高度になるほど、親や病院の介入が多くなり、子ども達が自立していない状況にも遭遇する。子ども達が親のそばを離れてキャンプに参加してインスリン療法について考えることは、自立支援につながると考える。キャンプで親元から自立した生活を送り、自分で血糖コントロールやインスリン療法について考えられるようになることを目標にキャンプを実施した。	・キャンプの中で血糖値を予測させ、インスリンの単位数について自分で考えさせることを積極的に行った。 ・栄養スタッフ企画の中でカーボカウントを学習し、食事による血糖値への影響を勉強した。 ・登山企画を通じて、積極的な運動を行い、運動時の血糖値のコントロールについて考えさせた。
長野	①糖尿病の仲間が集うことを通じて、友だちがやっていることや工夫していることを見たり聞いたりして、自分の生活に役立てる ②自分の血糖値の変動の理由を考えることができる	・糖尿病教室・事前の理解度確認を踏まえた糖尿病教室。・バイキング昼食・食事計算が楽しくできるようにした。・自己課題を目標としておき、一覧表にして到達のための方法を検討した。注射手技については、OBOGや実施できているキャンパーに見学させてもらうことを依頼し、部位拡大の方法や手技を身近に感じてもらい、不安が少なくなるようにした。・うまくできている手技については、よくできていることを声掛けし、自信を持ってもらうよう努めた。
新潟	①血糖値の変化を考え、インスリンを調節してみよう。②1型糖尿病について、いろいろな人から教えてもらおう。③出合いを大切に、仲間を作ろう。	①独自の血糖記録表をもとに、毎回、インスリン注射前に投与量について考えた。キャンパーとOBOGからリブレを利用し、1日血糖値変動を発表した。②多職種、それぞれの立場から教育プログラムを提供した。具体的には、医師から「糖尿病の基礎知識」「インスリン調節法」「合併症」「妊娠・出産」の講義、管理栄養士からは「食品と血糖変動の関係」の講義と「野外炊飯」「おやつ作り」、理学療法士より「運動と血糖コントロールの関係」の講義と「沢登り」、検査技師よりSMBGの正しい扱い方を目的として、実際に果物を扱い血糖値のその前後で検査値の変化を体験した。③インスリンメンター斉藤尚子さんからのお話、フォークダンス、肝試し、キャンプファイヤー
静岡	様々なイベントを通し、病気に対する理解や会員同士の相互関係を深める	OBOGによるパネルディスカッション。小児科医をファシリテーターにし、4名のOBOGの体験談を語ってもらった。参加者からの質問も受け付け、活きた経験を共有する。
浜松	勉強会やレクリエーションを通じて小児糖尿病の知識の習得や、インスリン自己注射、食事・運動療法の重要性の理解を促し、患児に明るい希望と自信を与える。	・幼児にもわかりやすいクイズ形式の勉強会。みんなで力を合わせて自炊でハヤシライスを作った。1～2時間のハイキング。
東海地区	キャンパーもスタッフも、年齢は班などいろいろな「わく」を越えられるように企画した。	仲間づくり、ザまつり、映画、キャンパータイム、自然の家デイ、食事全般
石川	キャンパーが年齢や男女を越えたつながりを持てるようになること。特に女子が好きな人同士で固まってしまうため、広く交流できること。	開村パーティ、外遊び、キャンプファイヤーでは、みんなで交流しながら楽しめるよう意識した。ダンスコンテストでも男女1つのグループとなり、一緒にダンスを披露できるようにした。
富山	「チャレンジ ユアセルフ(自分に挑戦)」をスローガンに、立山登山を通じて運動時の血糖コントロール、仲間との協力を体験	1日目立山室堂から雷鳥沢までのトレッキング、山荘に宿泊し、2日目に小学校高学年以上は剣御前(2777m)まで、低学年から4年生までは新室堂乗越(2387m)までの登山を行った。幼少児は雷鳥沢周辺の散策や川遊びを行った。
福井	怪我なくみんなで仲良く過ごすこと／お互いのいいところを見つけること	バーベキュー、おやつ作り、ゲームを通じてみんなで助け合う。
京都・滋賀	①糖尿病の理解を深め、インスリン自己注射、自己血糖測定法をマスターし、自己管理の重要性を認識させる。②カーボカウントを理解させ、炭水化物の量を計算できるようにする。③スポーツを通じて運動効果の重要性を理解させる。④共同生活を通じて患児相互の理解と親ぼくをはかる。	栄養士によるカーボカウントの勉強会、アイスブレーキング並びにピアカウンセリングにより、患児相互の理解と親ぼくを図った。
大阪(くるとみ)中止		
大阪(杉の子)	新規に使用する施設で、1型糖尿病患者、兄弟、家族とボランティアが交流を深めること。そのための協力し、課題を成し遂げる達成感を得ること。	「看護師主催の1型勉強会」・インスリンポンプとペン注射の注入方法を、看護師の監修のもと、年長患者が年少患者に指導・解説を行う。「登山」・御在所岳に登山を行う。低血糖が十分に予想され、緊急対応を余儀なくされる状況で児と周りの人で乗り越えてもらうための活動を体験してもらう。
大阪(近畿つばみ)	子どもの参加者が減っているが、OBOGは毎回参加している。OBOGにとっては心の支えになっているように思う。子ども達や保護者にとっては、彼らと接することで療養生活の励みになっているので、家族的な雰囲気の中でキャンプを実施している。	リーダーが子どもたちと楽しく遊べるよう工夫している。
和歌山	1型糖尿病患者の疾病ならびにインスリン治療への理解を深め、手技や対応力の向上を目標としている。患児家族への疾病への理解を深め、悩みを共有し、解決策のあるものは提言するようにしている。	プログラムは例年通り飯盒炊飯、栄養教室、海水浴、キャンプファイヤー。家族向けにキャンプ開始時に面談を実施。この時に具体的な悩みについて話し合い、キャンプ中に解決策を見いだせるものは提言している。昨年よりインスリンメンターを迎え、講演会開催・ディスカッションでの意見交換をしている。経験の多い1型としての先輩の話聞くことは、患児だけでなく保護者の悩みの解決に向けてよい助けになっている。
兵庫	1. 参加者がキャンプに求めるニーズの詳細な把握・対応 2. カーボカウントの学習 3. 移行期の支援	1. 親の会でボランティア、OBOG、医療スタッフが親と面談する時間を設定 2. 医療スタッフによる毎食時のカーボカウント実践 3. 兵庫県の1型患者会との連携
岡山	2013年度から導入されたカーボカウントを用いた実生活でのインスリン調整の実践を目指す。	・医師にカーボカウント勉強会2回（キャンプ前勉強会／カーボカウントをインスリン調整に活かす キャンプ2日目勉強会／主食を抑えたカーボカウントの実践） ・薬剤師による勉強会（インスリン注射と血糖コントロール） ・血糖コントロールの振り返り（1日の活動終了時に患児は血糖測定、運動量、食事、インスリン注射による血糖値をカルテに記載） ・バイキング形式での食事（自分で取り分けた食事の糖質量に応じたインスリン投与量を計算するトレーニング）

広島	安全で楽しいキャンプ	・「話そう会」同じ病気の友だちと日常に悩みなどについて情報を交換し、共有すること ・「野外炊飯、毎食バイキング形式の食事」自分が摂取する食事内容についてカーボカウントを行う ・「海水浴、キャンプファイヤーなど」友だちと楽しくふれあう。海水浴では施設の監視員とともに監視を行った。遊泳時間を10分間と決め、グループを3つに分けて監視できる人数を少なくして行った。
島根	1. 自立に向けた知識・技術を身につける 2. 様々なイベントを通じ、なんでもできるということを体験する。 3. 同じ病気の仲間との交流 4. 合併症の検査を行うことで、将来的に気を付ける必要性を啓発	1. インスリン注射、自己血糖測定、インスリン量の決定などを年齢や理解度にあわせて実施した。指導に継続性・統一性を持たせるため、医療スタッフのチームを作り対応した。 2. ダム湖でのカーヌーなど新しいイベントを用意して実施した。みんなで力をあわせて行う時間を設け、交流を促進した。 3. 同年代で話をする時間を設け、交流を促進した(ピアカウンセリングを含む)
高知	南海トラフ地震を念頭におき、災害学習の実施。今年も災害時の対策ができるようになることを目標にした	「災害学習」限られた光源(ランタン、スマホ)及び暗闇でインスリンの単位を合わす
徳島	①「もりのべ」参加を利用して、子ども達のキャンプへの積極性を維持しつつ、血糖コントロールのモチベーションに活かす。 ②災害時の必要物品や生活について知識を得る。 ③キャンパー同士の交流を深める。	「自然学校 もりのべ」、糖尿病教室「災害について」、災害時訓練(抜き打ち)、バーベキュー、肝試し、チョコレートフォンデュ大会
愛媛	40回記念のキャンプで、例年より1日多い4泊5日となったため、これまでのキャンプを振り返ると同時に、以前から進めている多職種連携をさらに発展させるキャンプとすること、比較的参加キャンパーの年齢層が幅広くなったことにより、キャンパー同士のコミュニケーションをより深めることを目標とした。また、猛暑の中での開催で、例年以上に安全対策に力を入れた。	屋外での活動を例年より減らし、調理実習・バルーンアート、チーム対抗クイズ大会、大演芸退会など、キャンパー同士が連携したり、高校生が小学生の面倒を見る機会を増やした。例年同様、薬剤師、栄養士、理学療法士、臨床検査技師に参加いただき、注射手技の確認、カーボカウント、災害時の運動などについてキャンパーに学んでもらう機会を作った。また、歯科医との連携も深めて、1型糖尿病で多いとされる歯肉炎対策についても考える企画を作った。
山口	糖尿病の正しい知識を再度習得すること、食事について特にカーボカウントを使用している方で、アンバランスな摂取になりがちなため、成長や生活にはバランスよく摂取することの大切さを伝達できるようにした。その他、通常話し合いのできないような内容を親や成人患者、子ども達に分け、話し合いをできるような時間帯を取り、悩みごとについてそれぞれ打ち明けられるようにした。	「調理実習」・・・子供たちは実際に食事を作ることで食べ物に対する苦手意識を少しでも減らすようにした。「話そう会」・・・時間のあるときにグループで集まって話し合いのできるような時間帯を設けた。
福岡(ヤングホークス)	将来大人になった時のために、こどもの自立に役立つ支援を行う	・精神的自立: Talking Groupなどで自分の人生を振り返り今後の生き方を考える機会を与える。 ・生活の自立: 自分のことは自分で考えて行える習慣をつける。自分で起きて顔を洗い、歯を磨く、布団を方つける、生活する場所は掃除するなどの生活の自立が医療療養技術習得に優先する、実際に生活の場所で行えているかまずは見守り、行えていない場合は指導する。 ・糖尿病療養技術の自立: 糖尿病を理解する、血糖自己測定やインスリン注射手技ができる、応用カーボカウントを理解して活用できるなどが習得できているか、実際に場面で見守り、行えていない場合は指導する。また糖尿病教室の講師を複数回参加の子どもたちに割り振って行ってもらう。
久留米	昨年までの施設が閉鎖となり、新しい施設での開催となったことから、スタッフや学生ボランティアも慣れない環境だった。そのため、安全第一を心掛け、事故なく終えることを目標にした。	食事について、施設の提供する食事をピュッフスタイルでとる形式だったが、カーボカウントを中心とした食事指導を重点的に行なった。
佐賀	①安全で楽しいキャンプイベントの計画、実施 ②基礎、および応用カーボカウントの実践	①海水浴・・・キャンパーを1人にしない→キャンパー1人に学生スタッフ1名を配置。全体を2グループに分けて、海水浴のグループと浜でスイカ割りをするグループに分け、途中で交代した。 ②初日にカーボカウント講習会を実施。各食前の血糖測定時に、食事量をどの程度食べるかを決め、応用カーボカウントでインスリン投与量を計算し、超速効型インスリン投与量を決定。
大分	①キャンパーおよびヘルパー、スタッフが事故を起こさないことを第一とした。 ②キャンパーの要望で新しい行事の組み入れを目指した。	①事前にスタッフで1泊2日の下見を行い、すべての行事の事前予行を行った。当日もキャンパーにはマンツーマンで対応し、不測の事態に備えた。 ②雨天時や夜のレクリエーションで、キャンパーの要望の多かった問題解決していくクエスト的な行事を企画し、大変好評だった。
熊本	・カーボカウントによるインスリン注射量決定法の習得・習熟 ・持続血糖測定器の使用による食事や運動と血糖変動との関連を習熟	カーボカウント法に関する講義 / 毎食前のインスリン注射量を医師やスタッフと検討
長崎	患児同士、保護者同士の交流、新患さんとの情報交換。	「話してガッテン」・・・日々の悩みをディスカッションする。「学習会(年齢別)」・・・幼児、低学年、高学年、高校生以上に分かれて講義やディスカッション。
宮崎	災害に備えることを目標とした	DM教室や講演等のプログラム
鹿児島	カーボカウントの理解とインスリンポンプについて	インスリンポンプを使用しカーボカウントを行っている1型糖尿病患者の講話のあとに、実践的な話を加えて説明した。
沖縄	中止	
香川	中止	